

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行 平成 18 年 10 月 10 日

少年時代・考古学・博物館

館長 高橋 一夫

私は昭和21年の生まれである。少年時代はチャンバラごっこ、野球、ビー玉、ペーゴマ、石蹴り、缶蹴り、ゴム段、ダルマさんが転んだ、押しくらまんじゅう、かくれんぼ、カゴメカゴメ、花いちもんめ等々、野外で遊び暮れていた。そして、紙芝居がどんなに楽しみだったことか。童謡の文句ではないが、日が暮れると家に帰った。いま思い返してみると、道具がいない遊びがほとんどで、遊びに季節感があり、子供なりに創意工夫をこらしていた。

小学校時代は、自転車で遠出をした。身近にあるのは大人用のがっしりとした自転車だ。ペダルに足がとどかない子は、三角乗りである。車体の中心の三角に片足を入れ、片手でハンドル、片手でサドル抱きかかえ、自転車を反対側に傾けての走行である。懐かしく滑稽な光景が浮かぶ。「三角乗り」、いまこの言葉がわかる人は少ないだろう。

夕刻になると、草加から安行の台地、その奥に秩父山系が夕焼けにシルエットとなって映える。「どういう場所だろう」、「どういう人が住んでいるのだろう」と思いながら眺めていた。そうした思いから、よく行ったのは安行だ。お寺、植物見本園などを巡った。今でも植物見本園からの眺望は好きだ。

何度目かに貝塚に行き当たった。竹の囲いがあったが、ためらいながらもそれを越える。貝塚という知識はあったのだろう、木片や手で掘る。これが私の発掘調査第1号。考古学へ進む遠因となった。内緒の話だが、その貝塚とは県指定の新郷貝塚である。県に入っただけで気づいた。

いまでも重要な遺跡のパトロールを実施しているが、その報告会で当会会長の宮川さんから、「新郷貝塚は子供が掘った形跡がある」と報告があった。「子供の発掘で影響を受ける程度は少ないから大目に見ましょう」といった記憶がある。本当はいけないのだが、子供の時の自分の姿をダブらせていたからだろう。

いま、当館は「ゆめ・体験ひろば」の新設に取り組んでいる。屋外には「昭和の原っぱ」を再現する。まさに私たちの少年時代に遊んだ原っぱを復原するのである。まさか博物館が昭和30年代を取り上げる時代がくるとは夢にも思わなかったが、少年時代の懐かしい遊びができる空間にしたい。主人公は子供のように思えるが、実はこれから定年を迎える団塊の世代がターゲットだ。かつてのガキ大将であった大人たちが、孫や来館者に身振り手振りで夢中になって語り、伝え、それを見たいまの子供たちが目を輝かせる、そうした子供文化の伝承の場となることを目指している。

いまの子供たちは一人ゲームで遊ぶ子が多いというが、私たちが子供の頃は体が遊び道具で、仲間がいないと遊びが成立しなかった。「博物館で遊び？」と思う方がいるかもしれないが、遊びも広い意味で展示である。そして、こうしたことを通して博物館を単なる学習装置から創知の場に大きく変えたいと願っているのである。

当会ニュースの題名が上記のように決まりました。「JUNO」とは、博物館の展示入口にあり、各年代の物差しとして使われている「寿能泥炭層遺跡」の「寿能」にちなんで名づけました。「JUNO」はローマ神話でジュピターの妻で女性の守護神、気品の高い美人のことであります。「JUNO」の創刊号となりますので、これを記念し、創刊準備号に続き、高橋一夫館長から原稿をいただきました。

9月30日、「仏像、その見方、楽しみ方」講演会アンケートの結果より～

上記の講演会は 160 名の方々のご参加をえて、開催させていただきましたが、その際、ご記入いただいたアンケート 128 通についての集計結果は次のとおりです。今後の当会の運営の参考とさせていただきますと思っております。

1.この講演会をお知りになったのは～ (複数回答可)

- (1) 新聞 76 (紙名：朝日 66、不明・その他 10) (2) 案内のチラシ 15 (入手場所：博物館 12、知人 1、不明・その他 2) (3) 回覧 1 (4) インターネット 1
(5) その他 36 (具体的に：友の会報 27、講演会 1、友人から 4、その他 4)

2.あなたは、ことし4月以降、この博物館へ何回ぐらいお越しになっておられますか？

- (1) 今回がはじめて、59 (2) 2から5回、54 (3) 6から10回、10 (4) 11から20回、3 (5) 21回以上、2

3.あなたは、ことし4月以降、この博物館以外の博物館へ行かれたことがおありですか？

- (1) 行った 86 (2) 行っていない 39 (3) 無回答 3

☆お差支えなければ、行かれた博物館の具体的な名前をお書きください。

<多かったベスト5>

- (1) 東京国立博物館 51 (2) 江戸東京博物館 20 (3) さいたま市立博物館 10
(4) 埼玉県立さきたま史跡の博物館 7 (5) 国立歴史民俗博物館 5

4.博物館友の会では、今後もこのような講演会を開催したいと考えておりますが、どのような講演をご希望でしょうか？ (複数回答可)

<歴史の分野で回答が多かったもの>～ =個別記入は省略させていただきました=
(1) 埼玉の神社 47 (2) 埼玉の古代寺院 35 (3) 埼玉を通る古代道路 31 (4) 埼玉の古墳時代 30 (5) 埼玉の鎌倉時代 25 (6) 武蔵七党 24 (6) 古代の利根川・荒川 24 (6) 幕末の埼玉 24 (9) 埼玉と家康 20 (9) 代官・伊奈氏 20 (11) 埼玉と平将門 19

<民俗の分野>～ =個別記入は省略させていただきました=
(1) 埼玉の民話 37 (2) 埼玉の人々の信仰 32 (3) 埼玉の年中行事 26 (4) 埼玉の民芸品 12

5.ご記入いただいた、あなたは～

- ・性別 (1) 女性 56 (2) 男性 69 (3) 無回答 3
・年齢 (1) 20歳代 3 (2) 30歳代 0 (3) 40歳代 4 (4) 50歳代 39 (5) 60歳代 62 (6) 70歳代以上 27 (7) 不明 3

(女性については～)

- (1) 20歳代 2 (2) 30歳代 0 (3) 40歳代 2 (4) 50歳代 19 (5) 60歳代 26 (6) 70歳代以上 7

- ・お住い (1) さいたま市 63 (2) その他、埼玉県内 52 (3) 県外 6 (東京 5、茨城 1)

- ・友の会 (1) 会員 36 (2) 会員ではない 85 (3) 不明 7

あなたの手帳に友の会のスケジュールをご記入ください！

- 1.10月28日(土)は、博物館と友の会の共同主催講演会「今に伝わる古流居合のわざとこころ」
10月7日(土)から11月19日(日)まで開催の特別展「由来 伝来 名刀の一千年」にあわせてのも
のです。講師は夢想神伝流7段の小宮山克巳氏(上尾市教育委員会)です。
博物館の展示は「名刀」にスポットをあてたもの、この講演会はその使い手にスポットをあてたもので
す。
小宮山氏が後輩の居合道部員をお連れいただき、実演もを見せていただけるとのことです。滅多に見
られない「居合」の実技も見られるチャンスです。ぜひ、お越しください。参加お申込みは博物館
(048-645-8171)へお電話いただくこととなります。お忘れなく「友の会・会員」とお申込みの際に付
け加えてください。会員であることをおっしゃっていただきますと一般の方と同じ扱いになります。
また、お申込みのないご参加はキャンセル待ちをしていただくことになることもありますので、お含みく
ださい。
- 2.11月5日(土)は、「民俗芸能公演」の団体鑑賞
博物館主催で与野本町の「彩の国さいたま芸術劇場」にて開催の「民俗芸能公演」を友の会として、
団体鑑賞しましょう。
演じるのは新座市野火止の石山社中、さいたま市別所の岡田社中、同じく常磐の浦和木遣り保存
会。
演目は「寿獅子舞」から始まって「天の岩戸」「大蛇退治」という神楽の二本立てが目玉。博物館の
斉藤修平学芸主幹が「退屈なしの3時間」と自信をもってすすめておられる公演です。
開演は午後1時、開場は正午です。
入場無料ですので、いつでも、誰でも、ご入場いただけますが、もし、友の会として、まとめてご入場
をご希望でしたら、当日、開場まで、入口に「友の会」のプラカードを持ったものがおりますので、そ
らへお越しください。
- 3.11月19日(日)は<会員限定>「斉藤修平さんをかこむお茶の会」
民俗ご担当の斉藤修平学芸主幹をかこんで、リラックスした雰囲気の中で、お茶をしつつ、お話を
おうかがいいたします。斉藤さんが「民俗」に惹かれた理由は何か、いま、民俗の業界で話題になっ
ていること～など、この際、ぜひ聞いておきたい疑問に答えていただきます。
<詳細は未定です。あなたのご予定を入れておいてください>
- 4.12月17日(日)は<会員限定>「飯塚 好学芸主幹による特別解説会」
たとえば、飯塚さんが、よその博物館に民俗のコーナーへいったときは、「何」を、「どういう目」で見ら
れるのか～
私たちは、学校でも「博物館の民俗展示の見方」を教えてもらったことはありません。自己流でしか見
ていないのです。しかし、もし、そういう自己流の見方が間違っているとしたら～それは不幸なこと
です。飯塚さんから「正しい見方」を教えていただくことは、こんど、どこかの博物館を訪ねたときに、き
つと役立つと思います。
<詳細は未定です。あなたのご予定を入れておいてください>

平成18⁹年1月から3月のイベント予定は～

1. 18⁹年1月はバス見学会「県内の前方後方墳を全部見る」

前方後方墳とは、当会の創立記念講演会の際に高橋一夫館長がご講演いただいたテーマでした。東国では前方後円墳よりも古くに発生し、なぜ、古墳が造られたかという疑問を解決するカギをにぎっている古墳です。今回は博物館の小久保徹主席学芸主幹のご案内で北は児玉町から南は富士見市まで、県内の前方後方墳のすべてを1日で見回るバスツアーです。

2. 2月は岸 清俊学芸主幹による特別解説会「展示物を読み下す」

館内の展示の中には、「何が書いてあるのか」、私たちが読めないものも多いのですが、それを岸さんに読み下していただき、古文書についての「見方」を勉強しようというものです。

3. 3月はバスでの「発掘現場・特別見学会」

水村孝行副館長に、その時点で県内で行なわれている発掘調査の現場をご案内いただきます。

<上記3イベントは日程等未定ですが、会員限定です。10月以降のご入会者の年会費は1,000円となることもあり、ぜひ、お友達にご入会をお誘いください>

理事会からのお知らせ

- ◎ご入会などの受付のため、「土日祝」には館のロビーで友の会窓口を開いています。平日は申込書などを入れるポケットのついた掲示板を置いております。各イベントの際にもご入会の受け付けをいたします。ご利用ください。
- ◎会員数は、9月の講演会の際のご入会をふくめ、180名を超えました。お礼を申し上げます。
- ◎サポートスタッフの募集は引き続き行なっております。内容などのお問合せは FAX (048-941-0440) 副会長・中村まで

群馬県立歴史博物館友の会訪問記

副会長 中村 均

10月29日(日)「ミュージアムグッズフェア」の際にグッズ提供や「ザ群馬デー」開設などで会場をたいへん盛り上げていただいた群馬県立歴博友の会を、表敬と会運営の現状や将来展望などを伺うために訪ねました。参加メンバーは宮川会長、瀧澤、中村副会長、大野、金子、関根、平野、広重、各理事と最上監事の9名です。

☆巨大な馬の銅像がお出迎え 群馬県立歴史博物館は、高崎市郊外の森林公園「群馬の森」の中にあります。昭和54年に完成・開館した建物は、ガラスを多用したモダンなデザインで、周辺的环境はよく似ていながら、重厚な赤レンガ造りの埼玉県立歴史と民俗の博物館とはまことに対照的な外観でした。ただ延床面積は埼玉の7割弱で常設展示場も手狭に思われます。ゆったりとした空間と展示場を備えるわが埼玉県博を誇りに思うと同時に、まだまだ活用の余地があるのではないかと感じました。

☆27年の歴史を持つ友の会 午前十時頃館到着。群馬側では吉田会長以下4名の友の会役員諸氏が待機されており、さっそく館内の会議室でお話を伺いました。群馬歴博友の会は、昭和54年、博物館開館と同時に発足されています。当初、会の運営は博物館主導で、専任の県職員が友の会選出の運営委員と協議しながら行われていたとの事です。会員も順調に増加し、ピークの平成8年には会員数1417を記録したようです。平成15年からは、県側はノータッチとなり自主独立の会として再スタートし、現在は14名の運営委員が中心となって活動されています。ただ規模が大きいだけに全てを運営委員でまかなうには無理があり、専任の有給事務局員2名と会員から募ったボランティア30名が催事運営や事務作業に当たっているとの事でした。

☆満員お断りで苦情相つぐ友の会催事 友の会事業の中心は、多様なテーマで開かれる歴史講座とその講座とセットになった県内外の見学会です。18年度の計画では講座が5テーマ10回、見学会が県内5回県外7回でその内1回は国外編となっていました。人気のポイントは質の高い講師陣をお願いしている事と、民間旅行会社が企画しない独自のコース設定にあるようです。また豊富な資金力を背景にミュージアムショップの経営や出版事業も行われています。

☆悩みは……新規会員獲得?? これだけ活発な活動を続ける群馬歴博友の会でも平成8年以降会員は漸減との話にはびっくりしました。初期の構成会員の高齢化が大きな要因で、既存会員(現在会員数約700)の人脈や各種団体への働きかけ、マスコミを通じての情報発信など手を尽しても自然減の会員の半数程度しか新規会員は得られないのが現状との事です。

2時間足らずの交流でしたが、埼玉県の友の会にとって今後の会運営に多くの指針を得ることが出来た有意義な訪問となりました。

10月28日（居合い）講演会アンケートの結果より～

上記の講演会は100名の方々のご参加をえて、開催させていただきましたが、その際、ご記入いただいたアンケート65通についての集計結果は次のとおりです。今後の当会の運営の参考とさせていただきますと思っています。

1.この講演会をお知りになったのは～（複数回答可）

- (1) 新聞1（紙名：朝日） (2) 案内のチラシ22（入手場所：博物館16、知人1、不明・その他11） (3) 回覧4 (4) インターネット0
(5) その他33（具体的に：友の会報12、居合い関係6、その他7など）

2.あなたは、9月に開催された「仏像・その見方、楽しみ方」の講演会にご参加いただきましたか？

- (1) 参加した、23 (2) 参加していない、39 (3) 無回答、3

3.あなたは、ことし4月以降、この博物館へ何回ぐらいお越しになっておられますか？

- (1) 今回がはじめて、21 (2) 2から5回、29 (3) 6から10回、9 (4) 11から20回、4 (5) 21回以上、1 (6) 無回答1

4.あなたは、お住いの県や市町村における郷土史研究の団体（研究会、サークル、クラブなど）の会員ですか？

- (1) 会員である、10 (2) 会員でない、54 (3) 無回答1

☆お差支えなければ、所属されている団体の具体的な名前をお書きください（複数可）

埼玉県郷土文化会、3 埼玉考古学会、1 朝霞郷土史会、1 武蔵野歴史研究会1、
大宮郷土史研究会、1 岩槻地方史研究会、1 浦和郷土文化会、1

5.ご記入いただいた、あなたは～

- ・性別 (1) 女性13 (2) 男性50 (3) 無回答2
- ・年齢 (1) 20歳代1 (2) 30歳代3 (3) 40歳代3 (4) 50歳代12 (5) 60歳代28 (6) 70歳代以上16 (7) 無回答2
- ・お住い (1) さいたま市31 (2) その他、埼玉県内31 (3) 県外1（群馬）
- ・ (4) 無回答2
- ・友の会 (1) 会員19 (2) 会員ではない36 (3) 無回答10

アンケートから～

◎9月の「仏像」講演会にきた人の再来が23、前回の講演会（館主催・小笠原講師）に来て、チラシをもらった人が3あり。講演会に来られる方は、次の講演会にも来ていただける率が高いと推定される。講演会において、次回の講演会をPRして、参加者を増やす努力がかかせないようです。

平成 19 年 1 月から 2 月のイベント決定！！

すべて、会員だけが参加できるイベントです

1. 19 年 1 月 21 日（日）にバス見学会 「埼玉の前方後方墳を全部見る」

前方後方墳とは、当会の創立記念講演会の際に高橋一夫館長がご講演いただいたテーマでした。東国では前方後円墳よりも古くに造られました。古墳が造られた「謎」解決のカギをにぎっています。今回は博物館の小久保徹主席学芸主幹のご案内で北は児玉町から南は富士見市まで、県内の前方後方墳のすべてを 1 日で見て回ります。友の会ならではのバスツアーです。ご参加をお待ちしております。

2. 2 月 24 日（土）は岸 清俊学芸主幹による特別解説会 「展示物を読み下す」

館内の展示の中には、「何が書いてあるのか」、私たちが読めないものも多いのですが、それを岸さんに読み下していただき、古文書についての「見方」を勉強しようという特別解説会です。

※ 3 月（日時・行き先未定）はバスツアー「発掘現場・特別見学会」

水村孝行副館長に「遺跡発掘の現場」をご案内いただくバスツアーです。

◎ 来月（12 月 17 日（日））は飯塚 好学芸主幹による民俗コーナーの特別解説会

＜上記イベントはすべて会員限定です。10 月以降のご入会者の年会費は 1,000 円

となることもあり、ぜひ、あなたのお友達にご入会をお誘いください＞

理事会からのお知らせ

◎会員証の再発行は無料です。ご紛失等の場合はお申し出ください。

※会員数は 200 名を超えました。今後ともご支援をお願い申し上げます。

◎新年度、会員証の更新は 1 月から申しあげさせていただきます。

※会の運営をお助けいただくサポートスタッフの募集を引き続き行なっております。内容などのお問合せは FAX またはお電話で（048-941-0440）副会長・中村まで

私 と 民 俗 学

～民俗芸能公演のうら、おもて。私を民俗学に引き入れたもの。
民俗学の面白さ、むつかしさ。埼玉の民俗、ここが面白い・・・

お話： **埼玉県立歴史と民俗の博物館・学芸主幹 齊藤修平さん**

平成 18 年 11 月 19 日 (日)

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

於： 博物館講座室

博物館の学芸員さんというと、何となく、近寄りがたい存在！

そんな方々と、一度ゆっくり、お話してみたい・・・専門家と

いうのは「何を考えているのか、どうして、専門家になったの

か？」・・・お聞きしたいことはいっぱいあります。

今回、はじめての催しとして、民俗芸能公演を終えられた齊藤

さんにザックバランなお話をお伺いすることといたしました。

ぜひ、お越しくくださいますよう、お待ちしております。

準備の都合上、ご参加ご希望のお申込みをお願いいたします。

お申込みは〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉
県立歴史と民俗の博物館内博物館友の会～会員番号記入のこと

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

会員でない方はぜひ、この機会にご入会ください

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行 平成18年12月5日

「お赤飯」を考えることから始める民俗学入門

埼玉県立歴史と民俗の博物館 齋藤修平

先日、わが家にお赤飯が届けられました。「七郷神社に子どもの七五三のお詣りに行ってきた帰りですが、いろいろとありがとうございました。これからはどうぞよろしく」と知人が訪ねてくれたのです。私は少し慌て気味でしたが「早いですね。もうお宅のお子さんも七五三ですか、おめでとうございませう」とお祝いを述べて、お赤飯をいただくことにいたしました。

私の家族は、美味しい赤飯をいただきながら「お返しにどのようなお祝いをしたらいいのかな」、「最近はお会いしていないから、お赤飯を持ってきてくれるなんて、びっくりした」とか言いながら神棚にお供えすることも忘れて、縁起のいいお赤飯を食べきってしまいました。

お赤飯には「特別な力」があるような感じがします。普通の御飯にも日々の生活を送る上で「力」をいただいておりますが、お赤飯パワーには勝てません。その理由は餅米であること、大角豆が入っていること、赤いこと、この三つにゴマが入って一体化して出来上がっているからだと思います。

「餅」パワーと「豆」パワーと「レッド」パワーです。赤は「魔よけ」と解釈するのはありがちな回答ですが、さいたま市では、やはり「We Are Reds.」の赤ですから、パワーがまったく違ってきます。それから、豆は節分でも実証済みのパワーです。お赤飯を食べていると、一気に正月気分になるから本当に不思議なハレの食べ物です。そして、お赤飯をいただいたら、慌ててお祝いの品物選びです。互酬性といいますか、直ちにお返しを考えなくてははいけません。食べ終わると忙しくなるのもお赤飯の力と言っていいでしょう。その理由は民俗学でしばしば語られる贈答慣行の輪にお赤飯がしっかりと位置づけられているからです。お赤飯はハレの食べ物、そんなポジションにありますからその後の義理欠けはできません。神様や仏様にお供えしないで、喜んで食べてしまうことも厳禁です。民俗的な規制の強い食べ物だからこそ、威力も大きいと思っています。

さて、お赤飯から話題は第一回民俗芸能公演の御礼にと移ります。満席御礼でした。800人を越す方々が劇場までお運びくださったのですから、本当にありがたいことでありました。友の会の皆様による口コミ大作戦も効を奏したわけでありませう。当日のお手伝いも大変でした。あふれる入場者の席を探して確保してくださったわけですから、ひたすら感謝ばかりであります。私はこの仕事を最初に引きうけたとき、「会場がガラガラ」の夢を見て目が覚めたことを記憶しています。小泉タウン・ミーティング開催のような犯罪的な乱費から無縁な私にとりましては、低コストの「口コミ動員」がすべてでありました。ありがとうございました。

埼玉県歴史と民俗の博物館友の会

会員限定
見学会

県内の前方後方墳を
全部見る

ご案内：埼玉県立歴史と民俗の博物館 主席学芸主幹

小久保 徹

実施日 平成19年1月21日(日)

集合 午前8時 JR南浦和駅西口ひろば

参加費 5,000円(バス・資料代等)＝当日ご持参
昼食はご持参ください(コンビニなどないところがあります。必ずご持参を！)

畿内で、古墳としてはじめて造られたのは前方後円墳。埼玉県ではじめて造られたのは「前方後方墳」でした。何故なのか？ 誰が誰のために造ったのか？ 県内の前期前方後方墳をめぐり、古代ロマンの謎を、あなたとみんなで考えてみようではありませんか！

コース：南浦和駅→本庄市(旧児玉町)・鷲山古墳→熊谷市(旧・江南町)・塩古墳群→吉見町・山の根古墳→東松山市・諏訪山29号墳→上福岡市・権現山古墳→大宮駅解散(17:00 予定)

お申込み：ハガキに住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し(同じバス希望の場合は同じハガキで)、1月11日(木)必着にて 〒343-0045 越谷市下間久里1148-1 越谷スカイハイツB802 篠原陸郎 お申込みいただいた方はご参加いただけます。ご返事はさしあげません。

◎お問合せは TEL&FAX 048-978-6245 篠原(Tel や FAX でのお申込みは不可) 当日緊急連絡 090-4139-2740 宮川

キャンセルはご遠慮ください！<会員限定イベントですが、ご家族・お友達にご参加いただけます>

会員アンケートにご協力ください

平成19年度の企画を考えるためのアンケートです。

発足の年である平成18年度は、「何事も試行錯誤」の年でした。19年度は多少の余裕をもって年間行事を決めてスタートしたいと考えております。まずは、会員の皆さまが「どういう行事」をお望みなのか～ご意向をお教えいただきたいと、アンケートをお願いすることといたしました。ぜひ、ご記入くださいますようお願いいたします。また、大変恐縮ですが、当該部分を切り取り、友の会あて、ご郵送をくださいますよう、お願いいたします。切手代もご負担いただくこととなりますが、よろしくお願い申し上げます。締め切りは12月22日（金）＝到着

あてさき 〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

学芸担当者の方との交流がおもしろい！

12月は17日（日）、飯塚 好さんと～

11月に行ないました齋藤修平さんとのお茶とお話の会は、非常に楽しい集いでした。

齋藤さんが、どうして民俗学者になったのか？ 学生時代の北海道、沖縄での体験や某角界大物の息子さんの家庭教師をつとめたお話など～をベースに、「民俗学」とは何か、歴史学、考古学との違いなどを、やさしく、興味深く、お話いただきました。

12月は飯塚 好さんの特別ギャラリートークです。4月に出来た民族展示室を、どのように見学すればよいのかを、おうかがいする数少ないチャンスでもあります。

そのあと、お茶を飲みながら、今度は飯塚さんが民俗学へ引き込まれた理由などを、おうかがいできる、質疑応答の集いです。友の会会員しか聞けないお話を、あなたもぜひどうぞ！

イベントのお申込みは「方法が発表されてから」に！

イベントへのお申込みについては、出来る限り、ご希望に沿うようにしたいと考えております。先着順とすることはありませんので、申込み方法が発表されてから、お申込みください。事務局があつて、担当者が常駐しているわけではありませんので、博物館へお問合せされても無駄になりますし、職員の方のお邪魔になります。よろしく、お願いいたします。

友の会には2種類あります。

デパート型と自主運営型

デパートの友の会は、デパートがお客様を自分の方へ囲い込むためにあります。販売戦略のなかで運営されるものですから、事務はデパートの職員が行ない、経費はデパートが負担しています。古くからの博物館の友の会では、これと同じような運営をしているところもあります。私たちの友の会は、このような会とは違います。自主運営型です。もちろん、博物館から種々のお助けはいただきますが、専任職員派遣や経費の援助はありません。博物館の「繁盛」のために友の会は自主的に「出来る限り」頑張り、友の会のために博物館は「出来る限り」支援するという「互恵」の関係であるといえるかも知れません。ご理解をお願いいたします。

平成 19 年度の行事を企画するための会員アンケート

ご多忙の折、申しわけございませんが、友の会のため、ひいては博物館の「繁盛」のために、ぜひ、お考えをお教えてください。

1. あなたの友の会へのご入会動機をお教えてください。(該当番号に○をおつけください。複数回答可)
- (1) 歴史に関心を持っている (2) 民俗に関心をもっている (3) 博物館の学芸担当者に質問などがしたい (4) 博物館が好きなので～ (5) 博物館のニュース、情報が知りたい (6) 埼玉のことが知りたい (7) 同じ趣味をもった人たちとの語らいを求めて～ (8) 余暇の活用として (9) 友人が入っているので～ (10) 見学旅行が魅力 (11) 博物館を応援するため (12) その他(具体的にお書きください：)

2. これまでの 18 年度の行事のうち、あなたが参加されたものは次のどれですか？ (該当番号に○をおつけください。複数回答可)
- (1) 講演会「古墳がはじめて造られたころ」 (2) 講演会「東国最古・謎の寺谷廃寺の誕生」 (3) 学芸員の眼で見る博物館「鈴木秀雄学芸主幹」の特別ギャラリートーク (4) 嵐山町「出土品展と周辺散歩」 (5) 講演会「仏像・その見方、楽しみ方」 (6) 講演会「今に伝わる古流居合のわざとところ」 (7) お話とお茶の会「斎藤修平学芸主幹」をかこんで

3. あなたが興味・関心をお持ちの歴史的な時代は、なに時代でしょうか？ (該当番号に○をおつけください。複数回答可)
- (1) 旧石器時代 (2) 縄文時代 (3) 弥生時代 (4) 古墳時代 (5) 奈良時代 (6) 平安時代 (7) 鎌倉時代 (8) 南北朝時代 (9) 室町時代 (10) 戦国時代 (11) 江戸時代 (12) 明治時代 (13) 大正時代 (14) 昭和時代(戦前) (15) 昭和時代(戦後)

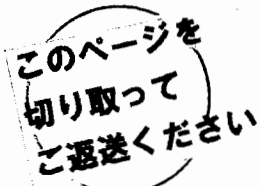
4. あなたが友の会の行事として、望まれるものは？ (該当番号に○をおつけください。複数回答可)
- (1) 講演会 (2) 史跡見学会(県外) (3) 史跡見学会(県内) (4) 少人数での歴史の入門講座 (5) 博物館の展示を前に詳しく解説してもらうイベント(ギャラリートーク) (6) 学芸担当者との懇談会 (7) 民俗行事見学会(県内) (8) 民俗行事見学会(県外) (9) 民具の作り方講習会 (10) 少人数での民俗の入門講座 (11) 会員の同好会(たとえば古代史、中世史、仏像～)の結成 (12) 博物館との意見交換会 (13) その他(具体的にお書きください：)

5. あなたは、友の会がバスによる史跡や民俗行事の日帰り・見学会を行なう場合、どのようなものをお考えでしょうか？ (該当番号に○をおつけください。)
- * 参加費 (1) 5,000 円程度 (2) 6,000 円～7,000 円 (3) 8,000 円～9,000 円 (4) 1 万円程度
- * 出発地 (1) 博物館周辺 (2) 大宮駅周辺 (3) さいたま新都心駅周辺 (4) その他(具体的にお書きください：)
- * 昼食 (1) 各自持参 (2) 弁当一括購入 (3) 現地食堂利用 (4) その都度便利な方法で～

6. ご記入いただいた、あなたは～ (該当番号に○をおつけください。)
- * 性別 (1) 女性 (2) 男性
- * 年齢 (1) 20 歳代 (2) 30 歳代 (3) 40 歳代 (4) 50 歳代 (5) 60 歳代 (6) 70 歳代以上
- * お住い (1) さいたま市 (2) さいたま市以外の埼玉県 (3) 埼玉県外(具体的に)

ご協力ありがとうございました

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会



埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行 平成19年1月1日

あけまして おめでとう ございます

平成19年元旦 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 会長 宮川 進

昨年は当会創立の年。皆さまの、博物館を支援したいという熱い情熱と会を育ててゆこうというあたたかいお気持ちに支えられて、なんとか順調なスタートをきることができました。

ありがたく、心よりお礼を申し上げます。

さて、昨年末には教育基本法が改正されました。

第2条（教育の目標）の第5項には「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに～」とあり、第12条（社会教育）第2項には「国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない」とあります。

この改正は、博物館や私たち博物館を愛するものには、まさに追い風、それも超大級の巨大「タツマキ」ではありませんか。

「伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する」ことを教える施設の最たるものとしては「博物館」においては考えられないでしょう。

また、国及び地方公共団体としては「～博物館～の設置その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない」というのですから、予算は取り放題、もう使えないといっても、まだまだお金を上げるというのでしょうから、すごい。

博物館のなかで、館の方が寒いのに暖房を点けず、照明を少なくして執務していたなんてことは古代の夢、学芸担当者はありがたい「国や郷土」のお話を賜るお方として生き神様扱い。友の会も寄付が殺到して財政豊富、入会するのに難解な試験突破と入会金1,000万円が必要となる。

よくぞ考えたものです。生まれた国や郷土のことを詳しく教えて、それらが何と尊く、愛すべきものかを、理解させてくれるというのです。たしかに、美しい国、素晴らしい国に誇りをもてば、美しくない行為である、天の声による「入札妨害」、タウンミーティングにおける「やらせ」、公務員住宅の不正使用、幼児虐待、セクハラ、パワハラ、ドクハラ、いじめなんて、全くなくなることでしょう。

まさに「美しい国」が建設されるのです。建設なんていうと、「談合」なんて忌まわしい言葉が連想されるのですが、それを「教育」というものでやろう、国と郷土に対する「愛」を喚起して行なおうというのですから、なんと素晴らしいことではありませんか。

そして、私たちの友の会も、その一翼を担えるのです。こんなに名誉なことはありません。

博物館をベースにして、「国と郷土を愛する国民」をつくることのお手伝いができるのです。

まず、私たちが国と郷土を、ますますくわしく知らなければなりません。博物館へ日参しなければなりません。博物館は博物館で改革が必要となります。なにしろ、生き神様ですから。神学者ではありません。自らが伝道者であり、エンターテナーでなければなりません。「国と郷土」を「面白く」伝えねばならないのです。お布施をいただくのですから。

そのような博物館に親しみつつ、教育基本法に支えられながら、勉強してゆきましょう。

この一年が、会員の皆さまにとりまして、良き年でありますよう、お祈り申し上げます。

平成 19 年度の行事を企画するための会員アンケート

集 計 の 結 果 に つ い て

友の会ニュース「JUNO」第3号にて、お願いいたしましたアンケートにつきましては、ご返送の切手代までご負担いただく申しわけないものにもかかわらず、12月21日までに54通のご回答をいただきました。会員の4分の1以上の方からご意見をいただいたということになります。これらのご意見、お考えを参考とし、また博物館のイベントも考えて新年度の企画を検討させていただきます。ご回答をお寄せいただきました方々に、心より、ご協力のお礼を申し上げます。

1. あなたの友の会へのご入会動機をお教えてください。(該当番号に○をおつけください。複数回答可)

- (1) 歴史に関心を持っている 43
- (2) 民俗に関心をもっている 20
- (3) 博物館の学芸担当者に質問などがしたい 6
- (4) 博物館が好きなので～ 19
- (5) 博物館のニュース、情報が知りたい 22
- (6) 埼玉のことが知りたい 12
- (7) 同じ趣味をもった人たちとの語らいを求めて～ 13
- (8) 余暇の活用として 14
- (9) 友人が入っているので～ 2
- (10) 見学旅行が魅力 13
- (11) 博物館を応援するため 16
- (12) その他 6 (具体的事項は省略させていただきます)

2. これまでの18年度の行事のうち、あなたが参加されたものは次のどれですか？

(該当番号に○をおつけください。複数回答可)

- (1) 講演会「古墳がはじめて造られたころ」 13
- (2) 講演会「東国最古・謎の寺谷廃寺の誕生」 15
- (3) 学芸員の眼で見る博物館「鈴木秀雄学芸主幹」の特別ギャラリートーク 5
- (4) 嵐山町「出土品展と周辺散歩」 6
- (5) 講演会「仏像・その見方、楽しみ方」 22
- (6) 講演会「今に伝わる古流居合のわざとところ」 5
- (7) お話とお茶の会「斎藤修平学芸主幹」をかこんで 9

3. あなたが興味・関心をお持ちの歴史的な時代は、なに時代でしょうか？

(該当番号に○をおつけください。複数回答可)

- (1) 旧石器時代 11
- (2) 縄文時代 19
- (3) 弥生時代 25
- (4) 古墳時代 26
- (5) 奈良時代 27
- (6) 平安時代 20
- (7) 鎌倉時代 17
- (8) 南北朝時代 12
- (9) 室町時代 15
- (10) 戦国時代 19
- (11) 江戸時代 23
- (12) 明治時代 13
- (13) 大正時代 7
- (14) 昭和時代(戦前) 6
- (15) 昭和時代(戦後) 5

4. あなたが友の会の行事として、望まれるものは？ (該当番号に○をおつけください。複数回答可)

- (1) 講演会 39
- (2) 史跡見学会(県内) 36
- (3) 史跡見学会(県外) 24
- (4) 少人数での歴史の入門講座 20
- (5) 博物館の展示を前に詳しく解説してもらうイベント(ギャラリートーク) 22

- (6) 学芸担当者との懇談会 16 (7) 民俗行事見学会（県内） 15
 (8) 民俗行事見学会（県外） 12 (9) 民具の作り方講習会 2
 (10) 少人数での民俗の入門講座 9
 (11) 会員の同好会（たとえば古代史、中世史、仏像～）の結成 15
 (12) 博物館との意見交換会 4
 (13) その他 2（具体的事項は省略させていただきます）

5. あなたは、友の会がバスによる史跡や民俗行事の日帰り・見学会を行なう場合、どのようなものをお考えでしょうか？（該当番号に○をおつけください。）

- * 参加費 (1) 5,000円程度 27 (2) 6,000円～7,000円 11 (3) 8,000円～9,000円 2
 (4) 1万円程度 4
 * 出発地 (1) 博物館周辺 4 (2) 大宮駅周辺 26 (3) さいたま新都心駅周辺 5
 (4) その他（複数回答・記入なし～11）
 * 昼食 (1) 各自持参 21 (2) 弁当一括購入 4 (3) 現地食堂利用 1
 (4) その都度便利な方法で～ 15

6. ご記入いただいた、あなたは～（該当番号に○をおつけください。）

- * 性別 (1) 女性 16 (2) 男性 37 その他無記入 1
 * 年齢 (1) 20歳代 0 (2) 30歳代 1 (3) 40歳代 1 (4) 50歳代 6 (5) 60歳代 35
 (6) 70歳代以上 11
 * お住まい (1) さいたま市 27 (2) さいたま市以外の埼玉県 25
 (3) 埼玉県外 2（神奈川県 1・千葉県 1）

新年度（平成19年）会費のご納入のお願い

平成19年4月から平成20年3月までの年会費のご納入をお願い申し上げます。

18年4月の創立以来、皆さまのご支援をいただき、会員数も200名をこえることができました。新しい年度こそは、前年の試行錯誤に反省を加えながら、皆さまと博物館のためにお役に立つ事業を積極的に行ってゆきたいと考えております。

ぜひ、引き続きの会費ご納入をよろしくお願い申し上げます。

同封の振替用紙にて、お振込みをお願い申し上げます。（振込取扱票・通信欄に会員番号を必ずお書きください）新会員証の送付は次の友の会ニュースと同時にさせていただきますので、到着までは郵便局の受け取りをご保管ください。

ご持参いただく場合は、3月までは原則として会の行事のない土曜・日曜に受付窓口を博物館ロビーに設けておりますので、お願いいたします。（博物館職員の方へのお預けはできません）

平成18年度ご入会のしるし☆印はそのままですが、会員番号は変更させていただきます。

旧会員証は19年3月末の有効期限以後、各自ご廃棄をお願いいたします。

お問合せは博物館内、友の会事務局まで郵便にてお願いいたします

友の会会員限定

博物館の展示からはじまる

古文書解読の楽しみ

読めないから、通り過ぎるだけの博物館の古文書、全部が読めなくていい。すこしだけでも読めれば、展示に対する興味もふえるし、博物館へくるのがますます楽しくなるのではないでしょうか。

鎌倉時代の「下文・下知状」や江戸時代の「朱印状」「高札」などを題材にして、当時の文書の成り立ち、どの部分には何が書かれているかのルールなどを教えていただきます。

◎ご案内・岸 清俊学芸主幹◎友の会会員限定の特別ギャラリー・トークと質疑応答の集いで
す。◎日時・平成19年2月24日(土)午後1時30分～3時◎ご参加・無料です

場所⇨定刻に博物館ロビーの友の会受付へお集まりください。

準備の都合上、ご参加ご希望の方はハガキに会員番号・お名前を記入し、2月21日(水)までに博物館友の会へ。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館内

平成19年2月5日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

ワナに落ちて、まかったお話

埼玉県立歴史と民俗の博物館副館長 水村孝行

寄席通いの明け暮れ

私は子供の頃から落語が好きで、学生時代には寄席通いで明け暮れました。大学時代の恩師が落語の評論家であったことが拍車をかけました。その先生は膨大な量の落語のテープをお持ちで、お宅におじゃますると考古学の話はそっちのけで、お酒を飲みながら落語を聴き、落語談義が弾みました。しかし、社会人となってからは寄席がよい回数も減り、車の中でテープを聴く程度になってしまいました。

大きなワナが一

そんな折、平成3年2月に一つの転機が訪れました。かみさんが買い物に行った折りにある商店で「鴻円会主催 第一回鴻巣寄席」のポスターを見かけたのです。私は喜び勇んで会場に出かけ、その場で入会を申し込みました。そこに大きなワナが待ち受けていたのです。寄席が終わったあと、世話人さん方に誘われて反省会に出席しました。その席上ある世話人さんが「あなたに鴻円会の会長になっていただきたい」と言いました。突然のことなので何の事やら訳がわかりません。聞いてみると、最初に入会を申し込んだ人を会長にしようと決めていたというのです。無茶苦茶な話ですが、さんざん酒を飲まされてとうとう承知させられてしまいました。このことが私の生活を大きく変えることになりました。

ワナの中に輪が一

私は20数年前に鴻巣市に住み始めた所謂「新住民」です。市内での知り合いは極めて少なく、ご近所とのお付き合いはありますが非常に範囲の狭いものでした。しかし、鴻円会に入会以後は交流範囲が飛躍的に広がりました。同会の世話人さんの多くは何代も続く商店のご主人だったり、お寺の御住職であったりして多士済々のメンバーです。実は私は入会以前から昔から鴻巣に根を張ってきた人たちと、徐々に増えてきた他地域から移り住んだ人たちが自然な形で交流することで、個々の考え方や生活そのものの幅を広げられたらいいなと思っていました。交流の幅が広がったことで、その一步を踏み出すことができたと思いました。今では街中を歩いていると寄席の常連さんから声をかけられます。入会以前には考えられなかったことです。なんとなく嬉しくなります。

よき仲間との巡り会い

鴻巣寄席は年6回（奇数月）開催されます。メンバーは立川文都（談志門下）、桂春雨（春団治門下）、柳家花緑（小さん門下）の3人が専属で、前座さんが1人つきます。

鴻巣寄席も始めてから約16年、今年の5月で100回目を迎えることになりました。よき仲間と巡り会い、楽しく活動しています。友の会会員の皆様の中で落語好きの方がいらっしゃいましたら鴻巣寄席にいらっしゃいませんか。

そして、博物館友の会も、会員の方々と博物館とのよき交流の場、あるいはよき仲間との巡り会いの場となりますように祈っております。

会員の更新期を迎えて

友の会 副会長

瀧澤 三郎

友の会の会員数は昨年 200 人を突破し、208 会員（法人 1）となりました。会員の方々のご協力、役員の方のご努力と県博のご支援によるものと感謝しております。

発足と同時に諸行事を企画させていただきましたが、博物館には何回ぐらいお見えいただきましたでしょうか。友の会の企画にご参加され楽しく過ごされた方、ご都合であまり参加できなかった方もおられたかと思いますが、本年こそはできるだけ参加いただき、楽しい思い出をつくっていただければと、ぜひ入会の更新をお願い致しますと共にお知らせの方をお誘い願いたいと思っております。会員が多くなればいろんな企画もできます。企画を通じて友の会のことをより多くの方に知ってもらうこともでき、県博との交流も活発化するものと思っております。

会員の更新状況は、ある面、私たち友の会や県博への評価ともなるのかもしれませんが、そのように深刻に受け止めることなく、状況に応じて適宜検討を加えることでいかがでしょうか。余暇の活動は、ややもすると公民館やコミュニティセンターのものと思込んでおられる方もあるかもしれませんが、友の会と県博との協働による諸活動を通じて、多くの方々に博物館を知ってもらうように皆で協力できればと思っております。

ところでこれからは、仕事と余暇活動を有効に生かしたいという人が多くなると言われております。いわゆる団塊の世代の人たちです。友の会にとってもチャンスでもあります。県博との一層の連携や会員同士によるサークルも視野に入れた計画等も今後の課題となるでしょう。また、この種余暇の活動は、自分の知識見聞を広めると共に、社会参加の意味合いもあると思っております。個々人の生きがいにも通じるもので、多くの友との出会いを待っている人は多いのではないのでしょうか。

友の会の生みの親でもある県博の高橋館長が、昨年、ある機関紙に『埼玉古墳群を世界遺産に登録を願っている』旨お書きになっておられました。世界遺産登録の道のは厳しく時間を要するものと思っておりますが、これは素晴らしいことだと思えました。当然行政当局が中心になるわけですが、県民不在の展開は考えられず、各種支援団体の結集が不可欠となります。私達友の会のささやかな余暇の活動がいつの日か世界遺産登録県民活動の一翼を担うことになればと考えたからです。何かわくわくするものを感じます。仲間を増やし、私達が生まれ育ったこの郷土のことをもっともっと知って、そして社会参加の証に広く、また未来ある子供達に発信していくことにもなると、楽しい夢をえがいております。

新年度（平成19年）会費のご納入のお願い

すでに約半数の方々からご納入をいただきました。ありがとうございます。

昨年4月の創立以来、皆さまのあたたかいご支援、ご協力をいただき、引き続き、2年目へ入ろうとしております。

1月に実施させていただきました初めての見学会も57名の方々のご参加をいただき、バス2台で本庄市（旧・児玉町）から上福岡市まで回るという旅程を無事終えることができました。

4月からの新年度には、講演会や見学会というメイン活動を毎月のペースで実施してゆきたいという意見も理事会ででてきております。

歴史を有する、他の博物館友の会に「活発さ」だけは負けないように活動してゆきたいと考えております。

友の会の活発さが、博物館を応援する大きな「ちから」になってゆくと考えるのです。

活動の内容としては、先日、集めさせていただいた「会員アンケート」の結果を参考としてゆくつもりでございます。

ぜひ、引き続き、会員をお続けくださいますよう、お願いを申し上げます。

◎年会費は 2,000円 です。

◎会費のご納入は、同封の振替用紙で郵便局からお振込みいただくか、会の受付のおります土曜・日曜・祭日に博物館の当会窓口（ロビーに設置）へおこしいただくか、どちらかの方法でお願いいたします。お振込みの場合の新会員証は次回のニュース発行の際に同封とさせていただきます。ご入手までは郵便局の受取証をお持ちください。

◎会員番号は前年度のものから変わります。（☆マークは続きます）

◎今年度から65歳以上とされます方は、その旨、お申し出ください。

◎旧会員証は3月まで有効です。その後、各自、ご処分をお願い申し上げます。

6人の方に新しく理事になっていただきました

新しい年度に、さらに活発な活動を行なうため、これまで「サポートスタッフ」として、会をおささえていただいた6人の方に理事となっていただきました。異例の処置ではありますが、創立当初の特殊事情として、ご承認をお願いいたします。

新しい理事の方（順不同）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ◎新開一男さん（蓮田市） | ◎手塚 充さん（さいたま市大宮区） |
| ◎青木節子さん（さいたま市大宮区） | ◎石渡勇一さん（桶川市） |
| ◎金子慶子さん（さいたま市岩槻区） | ◎櫻井傳次郎さん（さいたま市大宮区） |

さらに、サポートスタッフを募集しております。お仕事は、土曜・日曜・祝日の当会の受付や、発送などの事務のお手伝いです。お問合せはFAXにて048-941-0440 中村副会長まで。

早春の古代遺跡ウォーク

会員限定 発掘中の前原遺跡（縄文から奈良時代の集落址）、埴輪の作り方がわかる「かま」跡、重文指定の生出塚の埴輪などをめぐる楽しいウォーク！

◎発掘中の前原遺跡

◎整備ずみの馬室埴輪窯跡

◎重文指定の生出塚埴輪窯跡出土の埴輪

ご案内 埼玉県立歴史と民俗の博物館・副館長 水村孝行

平成19年3月7日（水）雨天中止

9時50分・桶川駅西口・東武バス「川越」行きの乗り場・集合

歩く距離は1日合計で約6.5km

○コース 桶川駅西口＝（バス）＝柏原停留所～前原遺跡発掘現場～鴻巣市馬室埴輪窯跡～馬室停留所＝（バス）＝鴻巣市役所～クリアこうのすく生出塚埴輪窯跡出土の重文埴輪見学＞＝（バス）＝鴻巣駅

○参加費 資料代100円（ほかにバス代として600円程度が必要です）

○昼食 各自必ずご持参ください

○参加お申込み 3月3日（土）までに〒343-0045 越谷市下間久里1148-1 越谷スカイハイツB802 篠原陸郎（ご返事はさしあげません）

会員限定イベントですが、ご家族・お友達のご参加いただけません。

○お問合せは TEL&FAX 048-978-6245 篠原（TEL や FAX でのお申込み不可）

○当日緊急連絡 090-4139-2740 宮川

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成19年3月5日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会発行

古代史の勉強は「わが生涯学習」

友の会 理事 平野 久雄

よく「生涯の趣味を持つ」と言われていますが、私も現役時代は多忙で時間的余裕がなく、切手・コインの収集や、鉄道関係の趣味に止まっておりました。

日本歴史については、私の世代は終戦を境として、戦前は皇国史観による歴史教育を受け、戦後は大きく転換しての混乱期に遭遇して育ちました故に、歴史の勉強は学びたいと思っても遠くにありました。

この希望が叶えられたのは今から13年前、定年退職後に時間的余裕が生じてからで、古代史の勉強を本格的に始めることができ「生きがいのある充実した人生の実現」を目指しての生涯学習となりました。

将に、宮川会長より贈られた「一生少年、一生感動」の人生訓を、生涯学習で実践している次第です。

注、古代史～私の場合は、「凡そ、3世紀～8世紀に収斂しての日本古代史」＋「考古学」を指します。

*

私の「古代史」を学ぶ契機（原点）は、「万葉集」の勉強にありました。

万葉集は、大飼孝先生の「その歌の作者たちの生きた時代と、その歌を詠んだ故地の風土、この二つから語りかけて来るもの」～を学ぶ学習手法に感動して、長い間、講座を受講しておりました。

万葉の故地（縁故のある古（仁）江の地）は古代史の舞台でもありますから、その故地に関わる歴史の勉強は、当初は畿内を中心に、やがては各地に展開し、必然的に、「古代史へのアプローチ」となりました。

*

古代史の勉強は、原島礼二先生（埼玉大学名誉教授）の講座を受講して学びました。

この講座は、各地の考古学情報がいち早く集められて、これらの資料（発掘調査資料等）により、関連した背景の歴史を学べるのが魅力でした。

当時の私の情報収集方法は、日比谷図書館に赴いて、奈良新聞、朝日新聞関西版等の、2～3日遅れの新聞記事に依存しておりました。（コピー代は、白黒一枚で50円も掛かりました）

このような「情報・資料の収集」のための苦労は、急速に訪れたインターネット時代の到来によって解消され、今では、地方新聞の記事、現地説明会資料、遺跡・古墳の概要等が、写真（最近では動画も）付で得られる様になり、大いに活用しております。

*

古代史への取組みは屋内・屋外共にインターネット検索等で情報を掴み、積極的に参加し楽しんでおります。

- (1) インドア（インターネット活用、講演会、大学の連続講座、歴史博物館等々の利用・受講・見学）
- (2) アウトドア（発掘現場見学、古墳めぐり等の実践）

また、これらの活動は、サークル・会員組織に加入しての仲間同士の交流も楽しみの一つです。

一例を挙げれば、埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会、樞原考古学研究所友史会、大和文化会、明治大学、古墳文化研究会（主宰・宮川進先生）等々で、同好の仲間との切磋琢磨、情報交換等々で活動しております。

*

冒頭でも述べましたが趣味としての古代史は、今や、私にとって生きがいとなっております。

いつまでも、良き指導者、良き同好者（友人）に恵まれて、元気で活動して行きたいと思っております。

友の会での行事を通して、古代史に限定せずに視野を広げ、中世も、民俗も学びたいと願っております。

完

新年度も、さまざまなイベントで

「友の会」をお楽しみください！

昨年4月に創立された、私たちの「友の会」、いよいよ2年目へ入ろうとしております。その2年目も、会員の皆さまのご希望をベースとして、基本的には毎月1回のイベントを開催し、「友の会」を、「博物館」をお楽しみいただきたいと思いますと考えております。

☆4月は卑弥呼の謎の一端に挑戦するイベント

イベント計画のうち、4月開催が決まっておりますのは、別にご紹介しております講演会「卑弥呼の時代と東国の古墳」です。

古代ロマンの花・卑弥呼の時代(=3世紀中頃)から「古墳」が造られたとすれば、これまで畿内で古墳が3世紀中頃から4世紀はじめに造られたものであるということを前提にして、4世紀の中頃から造られ始めたと言われる埼玉県古墳も時代的にもっと古く考えてもよいのではないということになります。邪馬台国なんて、北九州であろうが、畿内であろうが、東国には全く関係なかったと思われていたのが、もっともっと実は身近な存在になる可能性もあるのです。

そのあたりを博物館の高橋一夫館長にズバリお話いただきます。ぜひ、ご期待のうえ、お越しください。

☆見学会も6回の実施を検討中

先日、ご好評をいただきました「県内前方後方墳めぐり」バスツアーに引き続いての見学会も年間6回程度の実施を考えております。会員の皆さまが楽しんでいただける見学会としたいと考えておりますので、こちらへのご参加もお願いいたします。

☆古文書の読み方講座も実施予定

また、2月に実施させていただきました岸清俊学芸主幹による特別ミュージアム・トーク「古文書の楽しみ方」にご参加いただいた43名の方々の中から、「古文書の読み方」講座の開講を希望する声がありました。博物館のご協力をえて、皆さまのご要望の実現をはかってゆきます。

☆初心者のための鑑賞法入門講座も～

刀剣、能面、甲冑などの見方についての入門講座も博物館のご支援体制が決まり次第、実施したく計画しています。

☆学芸担当者の方との懇談も続けて～

博物館の学芸担当者との懇談会は今年度も続けて、さまざまなことを学ばしていただきたいと思います。

***計画は4月号で正式に発表させていただきます。ご期待ください！！**

求む。ともにお世話をする仲間。

来年度、さらに積極的に催しを展開したいと考えております「友の会」ですが、そのためには従来にもまして、イベントを推進する仲間がどうしても必要です。この「友の会」は自主運営ですから、他の博物館友の会と違って「おんぶにだっこ」というわけにはゆかないのです。

お知らせのとおり、先日、6名の方に理事となっただきましたが、まだまだ、要員が必要です。仲間のためにお世話をさせていただくことは、博物館のためでもあります。

そして、仲間が楽しむために「役に立つ」～これも立派なボランティアです。お時間の許すかぎり結構ですので、ご協力をお願いいたします。

お願いしたいことは、月に一度の会議へのご出席、イベント実施の際のお手伝い、二ヶ月に一回程度の入会の受付などです。

よろしく、お願いいたします。ご質問、ご連絡は副会長・中村 (tel&fax 048-941-0440) まで。

求む。ニュースへのご投稿。

このニュースも、単なるお知らせだけではなく、博物館の学芸担当の方、会員の方の論文、随筆なども掲載させていただきたく、ご投稿を求めています。

原稿の分量は1,200字程度です。できましたら、プリントアウトしたものでお願いいたします。ただ、友の会行事の感想文は、過去を追っても仕方ありませんので、掲載ご容赦ください。

ふるって、ご投稿くださいますよう、お待ちしております。

求む。会員証のご更新。

新年度の会費のご納入をいただきまして、ありがとうございます。すでに7割を超えるご更新をいただきました。心からお礼を申し上げます。

まだ、ご更新いただいていない方は、郵便局からの振替送金や土日祭日に博物館の当会受付でのお手続きをよろしくお願い申し上げます。

求む。お友達のご紹介。

新しく会員になっていただける方のご紹介についても、よろしくお願い申し上げます。あなたのお友達へ「友の会ご入会」のお誘いをいただきますようお願いいたします。

卑弥呼の時代と東国の古墳

かつて、邪馬台国、卑弥呼の時代は「弥生時代」とされてきました。しかし、いまや、「卑弥呼」と古墳時代とは接近しつつあります。もし、卑弥呼の時代（3世紀なかば）に古墳が発生したのなら、東国の古墳の年代もそれぞれ、もっとさかのぼるのではないかと、東国も卑弥呼の時代にいきいきとしていたのではないかと、あの女王・卑弥呼が一段と私たちに近くなる、そんなお話をうかがいます！

講師 埼玉県立歴史と民俗の博物館 館長 高橋一夫

とき 平成19年4月22日（日）午後1時30分～

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

（〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 大宮公園内 東武野田線・大宮公園駅下車5分）

参 加 無 料

ご参加希望の方は1ヶ月前からお電話にて上記博物館（048-645-8171）へ。

先着100名さま。 会員の方は会員番号をお知らせください。

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会